

さくらUTOPIAゲートウェイ 債権管理

引落情報と店舗情報の紐付けにより 店舗公共料金支払管理業務を効率化した事例

サービス さくらUTOPIAゲートウェイ 債権管理（引落用仮想口座利用）

顧客概要 飲食チェーンP社さま

導入目的 店舗公共料金支払管理の効率化



導入背景

約600店の公共料金の引落しを本社経理部門が管理している。同一ビル（拠点）に複数ブランドを出店している業態のため、店舗単位の経費把握は手作業で按分計算などを行っており、経費の特定と作業が煩雑で苦慮している。

案件概要

- 1.各拠点における公共料金の引落しは同一の口座から行っていたが、引落用仮想口座の機能を用いることにより、引落しの対象拠点を100%特定する。
- 2.出金データの引落用仮想口座番号と店舗マスタの情報を紐付けし、店舗の経費按分計算（固定額、比率等）を自動で行う。
- 3.会計システムとの自動連携データを作成する。

導入効果

- 1.本部が各店舗の公共料金支払いを正確かつ効率的に一元管理。
- 2.引落結果を会計システムに自動反映することにより、経費入力作業は不要。

概要図

